



つちや ひとし
土屋 齊
(明治四十年生まれ)

事績

岐阜県大垣市荒尾町 土屋義雄の次男として生まれ、昭和七年三月東京帝国大学を卒業後、翌昭和八年四月社団法人同盟通信社に入社し、その後、社団法人日本ニュース映画社に出向、編集部長、外国部長、編集局長を歴任した。

終戦後は、株式会社みやこ新聞社に転じ、次いで岐阜放送株式会社、東海ラジオ放送株式会社、東海テレビ放送株式会社の設立に参画し、設立後はそれぞれその役員に就任するなど、報道の分野において二十四年にわたり輝かしい足跡を残した。

昭和三十二年十月、請われて株式会社大垣共立銀行に取締役として入行、昭和四十二年十月には取締役頭取に就任し、積極的に業容の拡大に努めるとともに、その豊かな経験と広い視野からの卓見、卓越した指導力により、他の金融機関と協調を保ちつつ、岐阜県を中心とした地域産業経済の振興に大きな功績を残した。

特に、産業空洞化の懸念や市場の成熟化といった経済の構造変化の中で、地域経済の活性化と雇用の創出のため、新たな産業群の創出が求められている今日、そうした新産業の担い手のために、新技術の開発や新分野への進出のための研究開発資金や新規事業の展開等に必要な資金に対するベンチャーサポート投融資制度を創設した。さらに、社団法人全国地方銀行協会の理事、評議員、評議員会議長などの要職を歴任し、業界の発展に貢献した。

氏は、その深い学識と豊富な経験、広い視野から将来を卓見し、熟慮断行の経済人としての活動に加えて、文学・美術にも造詣が深く、こうした氏の円満高潔な人格と卓越した力量は、広く周囲の認めるところであり、各界からの依頼・要請を受けて、数々の公職・団体役員に就任し、本県の産業経済の振興発展はもとより、社会福祉、芸術、教育・文化、スポーツ等の振興充実に大きな貢献をしている。

氏は、岐阜県博物館協議会会長、岐阜県美術館美術品収集委員会座長、「おんさい岐阜」県民運動推進懇話会会長、「花の都ぎふ」運動推進協議会名誉顧問、民間福祉施設等整備促進懇談会座長、岐阜県消防友の会連合会会長、財団法人岐阜県共助会会長、岐阜県更生保護会連盟会長、岐阜県ゴルフ連盟会長、小さな親切運動岐阜県本部代表のほか、様々な公職・団体役員として活躍し、県政の発展と公共の福祉の増進に多大の貢献をしている。

氏の活躍の中でも特筆すべきは、博覧会協会会長として「ぎふ中部未来博覧会」を大成功に導いたこと、実行委員会副総裁として「花フェスタ 95ぎふ」の成功に大きく貢献したこと、岐阜県公安委員会委員長として交通安全や防犯など県民が安心して暮らせる岐阜県づくりに多大の貢献をしたこと、財団法人岐阜県老人クラブ連合会会長として高齢者の生きがいや健康づくり等の推進に大きく寄与したこと、岐阜県民スポーツ振興推進協議会会長として本県のスポーツ振興に指導的役割を果たしたことである。これらの特筆すべき功績を項目別に記述すると、次のようになる。

(ぎふ中部未来博覧会協会会長としての功績)

昭和五十七年の提唱から足かけ七年の歳月をかけて準備された「ぎふ中部未来博覧会」(未来博88)は、昭和六十三年七月八日から九月十八日までの七十三日間、岐阜市長良川畔で開催された。本県飛躍の起爆剤と位置づけられたこの未来博88は、「県土まるごとパビリオン」との発想のもとに、県下九十九市町村がそれぞれ趣向をこらした企画で競い合うなど、文字通り県民総参加の盛り上がりを見せた。入場者数も、目標の二百五十万人を大きく上回る四百七万人にのぼり、内容、収支とも際だった成果を収め、内外から日本一の博覧会との高い評価をうけた。

この未来博88の大成功は、博覧会協会会長としての氏の卓越した指導力と果敢な行動力によるところ大であり、この博覧会を契機として大きな飛躍発展を遂げた本県の現在の姿を見ると、氏の功績は誠に大なるものがある。

(花フェスタ、95ぎふ実行委員会副総裁としての功績)

「花フェスタ、95ぎふ」は、岐阜県民一人ひとりが花と緑の大切さを認識するとともに、地球環境に配慮し、花と緑を守り・ふやし・育てるための知識を得る場、「花と緑のまちづくり」を積極的に推進する契機となることを目的として、平成七年四月二十六日から六月四日までの四十日間、県営可児公園で開催され、目標入場者数五十万人を大きく上回る百九十一万人余の人々に大きな感動を与え、成功裡に終了した。

このイベントにおいて、実行委員会副総裁として、未来博88で培ったノウハウを遺憾なく発揮して、持ち前の指導力と行動力により、これを大成功に導いた氏の功績は、非常に大きいものがある。

(岐阜県公安委員会委員長としての功績)

昭和四十五年十月、氏は岐阜県公安委員会委員に就任し、公明、高潔、何ものにもとらわれない厳正公平な姿勢を貫き、以後連続六期十八年の長きにわたってその職にあった。特に、昭和四十六年十二月十七日から昭和六十三年十月二十七日までの間は、委員長として、高度情報化、国際化等社会情勢の変化に対応した防犯・捜査態勢の強化を図るとともに、信号機、道路標識等の交通安全施設の整備、暴力団の取締り強化や少年非行の防止を進めるなど、県民が安心して暮らせる岐阜県づくりを積極的に推進し、大きな成果を上げた。

(岐阜県老人クラブ連合会会長としての功績)

氏は、昭和六十一年五月、財団法人岐阜県老人クラブ連合会会長に就任し、平成八年五月まで五期十年の長きにわたり会長を務めた。この間、老人クラブの育成に力を尽くし、県内の老人クラブ数は、二千九百三十八から三千百八十へ、会員数は十九万九千九百七十二人から二十三万五千五百五十五人へと大幅な増加を見せた。また、老人クラブ指導者の養成研修では、新たな老人クラブの担い手づくりを図り、平成六年度から「岐阜県老連大学」を開設し、ヤングオールド・リーダーの養成に努めるとともに、女性の特性を生かす女性リーダーの育成にも尽力した。平成四年には岐阜県老人クラブ連合会設立三十周年記念大会を盛大に行い、平成七年には全国老人クラブ大会を岐阜市で開催するなど積極的に岐阜県の老人クラブをリードし、高齢者の生きがいや健康づくり、社会奉仕活動の推進に大きく貢献した。

(岐阜県民スポーツ振興推進協議会会長としての功績)

本県では、平成三年十一月に、「スポーツ王国・ぎふ」づくりのため、県民一人一スポーツを目標とした「一・一運動」を推進し、県民スポーツの一層の振興を図ることを目的として、岐阜県民スポーツ振興推進協議会を設置した。氏は、設立以来平成十一年六月まで会長を務め、その卓越した識見と実行力をもって、本県のスポーツ振興に指導的役割を果たした。

また、「一・一運動」を総合的に推進するため、県内のスポーツ関係団体の中心的役職を担っている三百名のスポーツ推進員を中心に、各スポーツ団体の連携及び協力体制づくりに尽力し、県民に対するスポーツ意識の啓発及び普及活動などに多大の貢献をした。

以上のように、氏は、本来の銀行業務に卓越した手腕を発揮するかたわら、経済人として本県産業経済の発展に大きな功績を残すとともに、本県に関係する数多くの公職・団体役員として活躍し、県民福祉の向上、県政の発展に極めて大きな功績を残した。